

「先優後楽」

～神の国と神の義を第一にしていますか～

I ペテロ 3 : 1-14

今年も2か月となりました。皆さんはこの一年間をどのように進むことができたでしょうか。このように歩むと決めた日から今日までどのように歩んできたでしょうか。願った通り神様の時を無駄にすることなく歩んでいます。と言える方もおられるでしょうが、私たちが、神様の時を着実に成していくということはこの世の中では大変な戦いがあります。私たちの心には、痛みや葛藤があります。その痛みや葛藤を素直に悲しみに向けて、処理することができず、怒りに変えてしまえば、間違った判断をしてしまうことがあります。それによって、神様の時を神様の計画から少しずつ離れてしまうことがあるかもしれません。私たちは、もう一度神様の前に、しみのない、傷のない、平安をもって御前に出られるように励めるようになりたいですね。聖書には、しみ、傷、そして多くの同じ失敗のことがありますが、それによって、罪人ではないという人がいます。しかし聖書が語っている罪はそうではありません。最善のまっすぐな道があっても、私たちがとるか踏み外してしまいます。これが、ハマルティア(罪)です。そして、この罪から神に戻る過程で、神様はそのマイナスを益としてくださいます。しかし、この次が肝心です。神様の道を外してハマルティアして、神様に会ってメタノイア(悔い改め)もとに戻ったのなら、今度は同じ失敗を繰り返さない。このことを、心に命じなければなりません。その多くの同じ失敗のはじめは、痛みや、問題や、悲しみです。わたしたちの人生において、まさかの出来事です。私たちが「まさか」と思える出来事に対して”神を愛する人々、神の御計画にしたがって歩む人々のためには、神はすべてを働かせて益”として下さるのです。聖書に出てくる多くの人はたくさん罪を犯した人です。当時の法律で殺されるようなことをした人です。彼らは自分が悪い奴らと思っています。だから、彼らは、早く悔い改めようとしています。しかし、私たちは、そのことが、わかっているようで、わかっていないのです。自らを抱えている問題に気づけません。死というのは、私たちにこのことを通して多くのことを気付かせてくれます。私の友人の知人が、3日ほど前、車を運転していて、よそ見をしていて、人をはねて殺してしまいました。わたしの友人は非常に慌てて、自分は何ができるだろうかと、死を目の前にして、その過ちを犯してしまった女性に対して真剣に考えている姿がありました。今までの生き方を変えざるがきかけ、それは死です。日本人は死に対して、非常に大きな思いがあります。キリストは死んだあとどこに行きますか？それは、天国です。死に対して恐れはありません。しかし、生き様と死に様をよく考えなければと思います。あなたの生き様、死に様はどのようなものですか。ここが肝心です。終わりの日が近づいています。今、周りを見渡せば、本当に悲惨な状況です。若い人の中に夢や、希望もありません。そんな時代になってしまいました。わたしの尊敬する人たちは、大きな夢、目的に向かって、よく話したりしていたものです。今は、自らで考え、自らで行動することが全くできなくなりました。「考える」ことをしなくなってしまったからです。日本人は元来、農耕民族ですから、種をまいて、収穫する。生活でした。冬の間は食べ物を雪の中に蓄えておく。冬の間生き抜く秘訣だったので。生き抜いていく為に、先を考え備えていたのです。ご年配の方々に聞いてみていただきたい。その方々が若い頃どのように先のことを考えてきたか、戦後の大変な時代、どう戦い将来をみてきたか……。

先優後楽

岡山の人はよく知っているのではないのでしょうか。石井十次先生はじめ多くの先人たちがこの思いでやってきました。「天下の憂いに先立って憂え、天下の楽しむ後に楽しむ」世の中の人に先立って、天下国家の事で心配し、人々が楽しんで後に楽しむ。政治を行う者の心構えを説いた言葉です。岡山の後樂園を建てた池田清正は水戸光圀の築いた東京の小石川後樂園を模して岡山後樂園を築きました。池田侯は財政難だった岡山藩を立て直して、財政が潤ってから、この公園から良いものを流していく思いで建てました。徳川家の教えを引き継ぎ、同じ思いで、先人たちは多くのことを成していったのです。

①嫌なことを先に

嫌なことを先にする。私たちはできていますでしょうか。私たちの嫌いなことです。パウロは言っています。しなければならぬことはできず、ことさらやってはいけないことをやっちゃいます、と。今日やらなければならないけど、「まあいっか。」これを繰り返しているかどうか？神の国と神の義をまず第一に求めない。そうすれば、それらの必要なことは加えて与えられる。という約束から離れていくということです。このことがわかっているにもかかわらず、「めんどうくさい。」この考えが神の国を第一にできなくなります。この結果、私達の生き様、死に様は楽と逃避ゆえに、多くのものを失います。罰があるからするのではなく、自らの人生の栄光を現していくためです。それは、イエスはあなたの人生で負ってきた痛みや、苦しみを全部引き受けてあなたの身代わりになってくださいました。だるさめんどくささすべてをとって、私が背負うからその犠牲の上に生きなさいといわれています。だから、そんなことは言っていないという思いを見出さないとはいけません。大事なものを失って、自分の好きなものだけを選ぶ。自分に得なことだけして、あとはしない。

損か得か。人生で正しいことをしようと思ったら損なんです。頑張らなければならないからです。聖書の概念は絶えず、損による祝福です。私達が涙とともに種を蒔くなら喜び叫びながら刈り取るんです。種蒔きと刈り取りの概念を私たちが失ってどうして祝福があるのでしょうか。神様に私たちが願うとき、神様は条件をだされます。申命記5章9～10節には、「わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。」とあります。神様が罰を与えるわけではありません。アダムとイブからの、この世の法則です。従わないのなら、この世の法則に従うしかありません。だからキリストは神の国の大使です。大使館はそこだけ治外法権です。海外にいて、連う母国に入れることは素晴らしいことです。キリストが教会に来るということはそういうことです。キリストは神の大使です。その大使が、その特権を信じてでいて、その地で大使としての法則を行えば、栄えている素晴らしい国で、その国を富ますことができます。できなければ、世俗と同じです。みなさんは素晴らしい国家に属して、その能力を持っています。しかし、この世の法則で生きたら失敗します。キリストであって生き方がこの世の人とあまり変わらないなら周りの人はあなたをどう思いますか。ただの苦しむキリストです。だから、嫌なことを先にしなければなりません。種を蒔くことは嫌なことです。自分の食べ物蒔かなければなりません。それが、私たちの祝福の種なのです。嫌なことをするのは将来の収穫をえるための秘訣です。

②ライフプランとアイデンティティの確立

皆さんは10年後どうなるかライフプランをたてていますか。神様は将来と希望の計画を立ててくださっています。私たちは、信仰を持って将来と希望の計画を受けとらなければなりません。何のためのあなたなのか、神様は私たちの人生に関与するのです。なぜなら、母の胎にいた前から、2014年の今日、あなたは神の選びによって導かれました。神様が選んだのです。今日この場所に来たのには意味があります。そして、明日、あなたの職場に向かわせ、偶然ではありません。意味があつてあなたを遣わしているのです。ですから、アイデンティティを持たなければなりません。私たちが何かできます。神は、私たちを通して栄光を表すのです。聖書はいつも一人が変化するところから多くの人が変えられます。キリストの一粒の死によって今日私たちのところまで継承されてきました。イエス様が死んだのです。違います。彼の生き様を継承し、自らの十字架を背負って生きた人たちが、バトンを繋いでくれました。あなたにも繋いでいます。リベラルに注意しましょう。空海は般若三蔵の影響を受けていました三蔵はキリスト教の一派であるネストリウス派の教えを学んでいました。当時の中国唐には、景教(キリスト教)の教会がたくさんありました。もし、三蔵が正しいキリスト教だったなら、空海はキリスト教の教えを少しだけ取って来るようなことはなかったでしょう。少し、脱線してしまいました。その、少しの脱線が今日、大きな脱線を産んでいます。三蔵たちは本当の救い主はキリストだ、釈迦だと話していましたが、仏教とキリスト教を混合した宗教を日本に伝えています。空海の教えはローマ書や、山上の説教に影響を受けているという文献がたくさん残っています。しかし、そのリベラル思想は、本当の救い、本当の愛に至らなかったのです。皆さんも自らの人生を妥協してはいけません。”私が道であり真理であり命である”とあります。ですから、イエスキリストにたつて価値観を持ちましょう。

③死に対する備え

私たちは脱線しないために今歩んでいる道を歩いていって、どこに行ってしまうのか考えなければなりません。神の時がいつ来るかわかりません。ですから神様は皆さんを通して何かをします。死に対する備えをしてなければなりません。将来と希望の計画はあるけれど、神の時はあります。いつか最後かわかりません。ヒゼキヤ王は神様に延命を願って、聞き入れられ、延命しましたが、延命して以降善い行いはしませんでした。彼の時はそこで終わっていたのです。神様の時があるのです。”生きることはキリスト、死ぬことは益です””神のなさることは、すべて時にかんがって、美しい”その日その日の労苦が全うされているか考えましょう。人は産まれて必ず死にます。死に対する準備がない人はその日その日を大事にしません。日本人は死を恐れないようにしてしまいます。死はこの地で競争を走り終えて、天に帰ることです。死が人を別つのではなく私達の霊は永遠に生きつづけます。この地上では有限になっただけです。朽ちる体を持っていますが、霊は朽ちません。死に対する備えは、肉に対する備えです。歳を重ねた方はぜひ備えてください。若い方々はそれを軽んじてないで下さい。神様の前に生き、次の世代にそれを残さなければなりません。その子ども達にあなたの生き様をしているか確認してみましょう。キリストの死を無駄にしないために、キリストが、その生き様をあなたに継承しました。この地にあって正しく生きよ言われたのです。死に備えてください。一番大事なことです。今終わってよいか悔いが残らないかを今日、考えてください。私たちに命がけの犠牲があるのです。”もはや私の内には私は生きるにあらざ、キリストが私の内に生きるなり。”と言える人生を歩んでいきましょう。(要約者: 澤口明子)